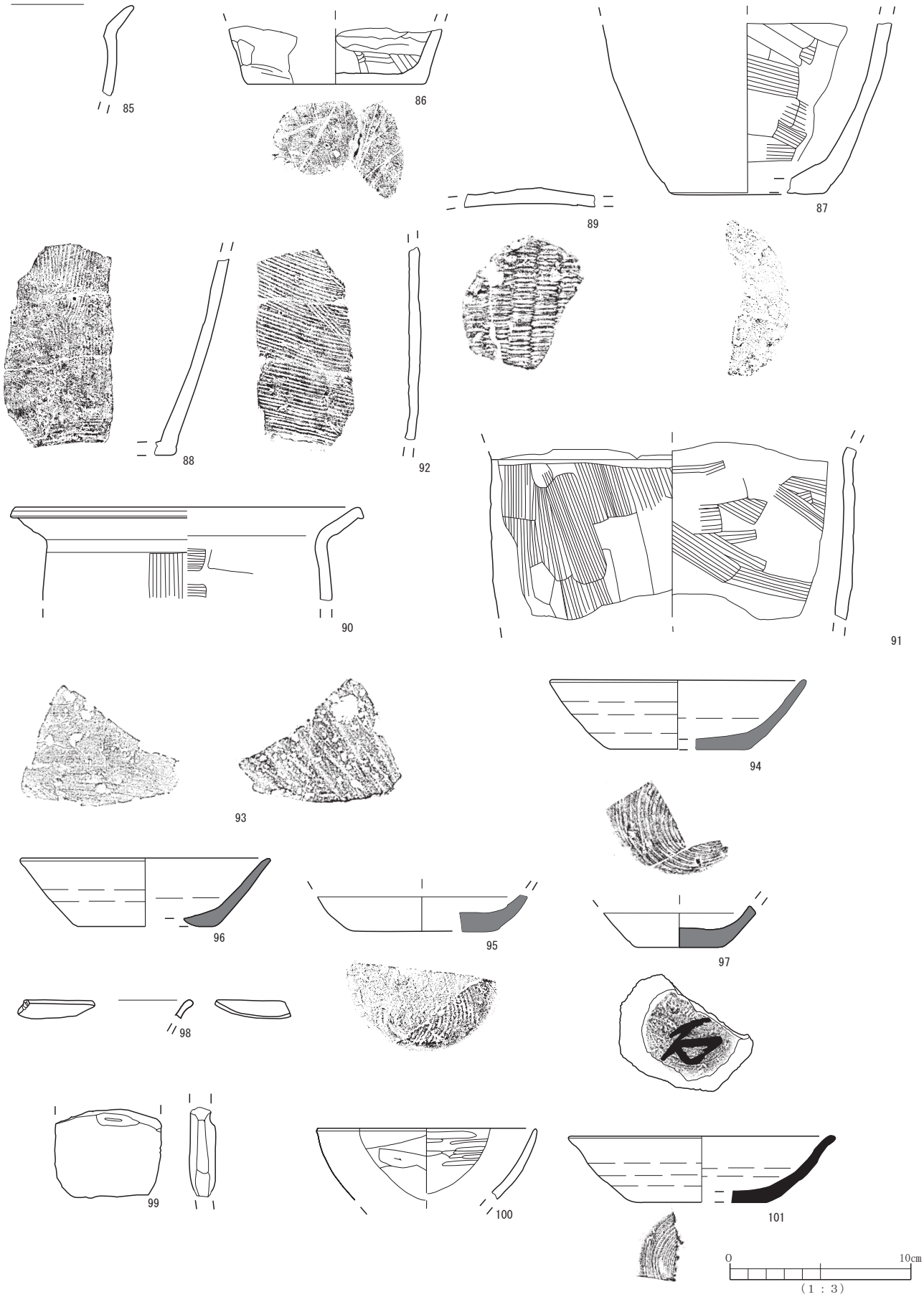


第36図　ＳＧ41出土遺物（２）

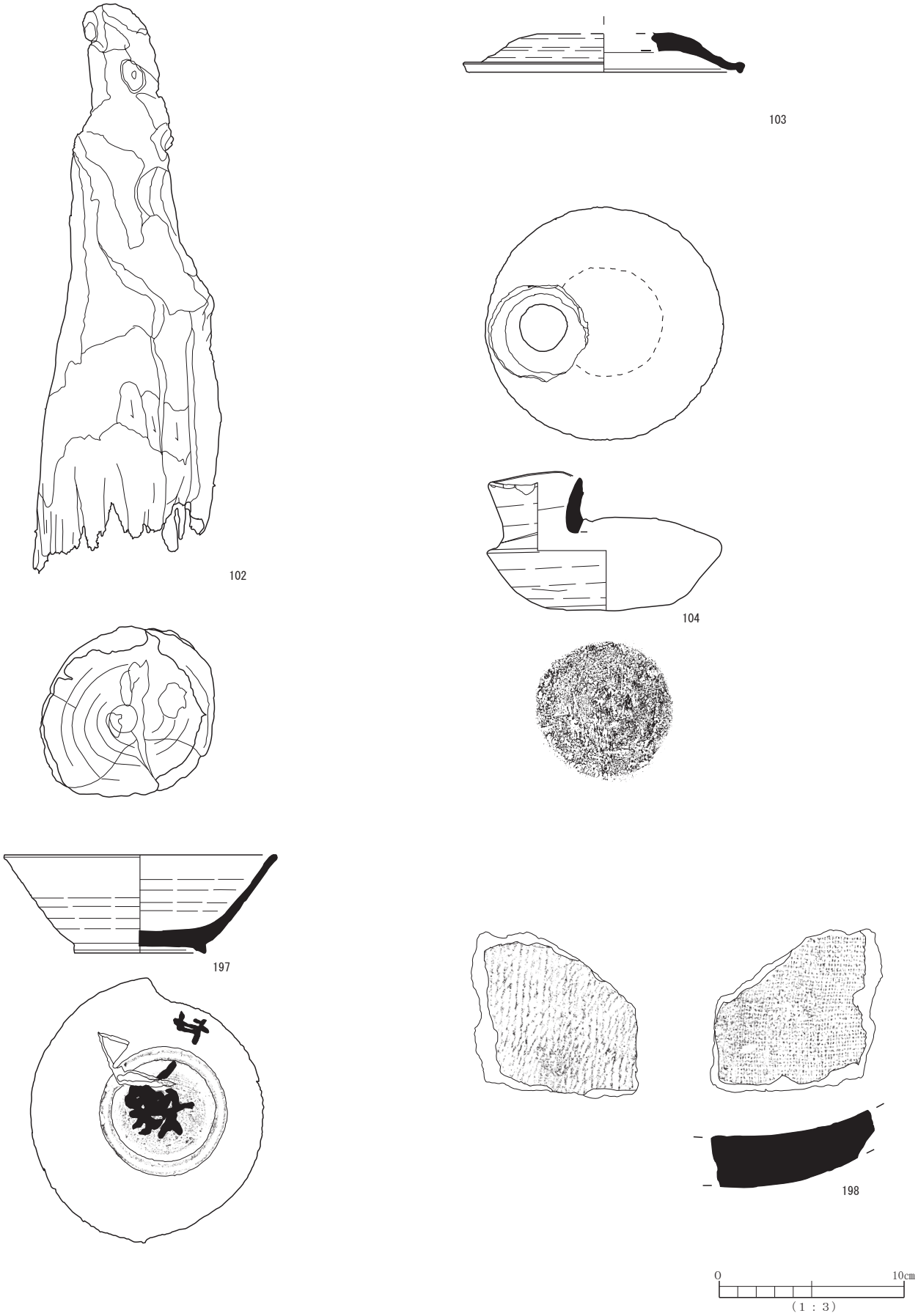
たい。酒田市資料館長　小野　忍氏より、県内出土の類例についてご教示を頂いた。なお、東北芸術工科大学准教授　北野　博司氏より、風船技法による成形である旨のご指摘を頂き、実測図中に円盤閉塞の箇所について破線で示した（第 37 図）。

現場調査中に、調査時の廃土中から平瓦（198）が確認された。凸面に縄目状のタタキが、外面に布状の圧痕が施される。山形市域で、消費地遺跡において古代の瓦が確認される類例は極めて少なく、貴重な出土事例と考えられる。

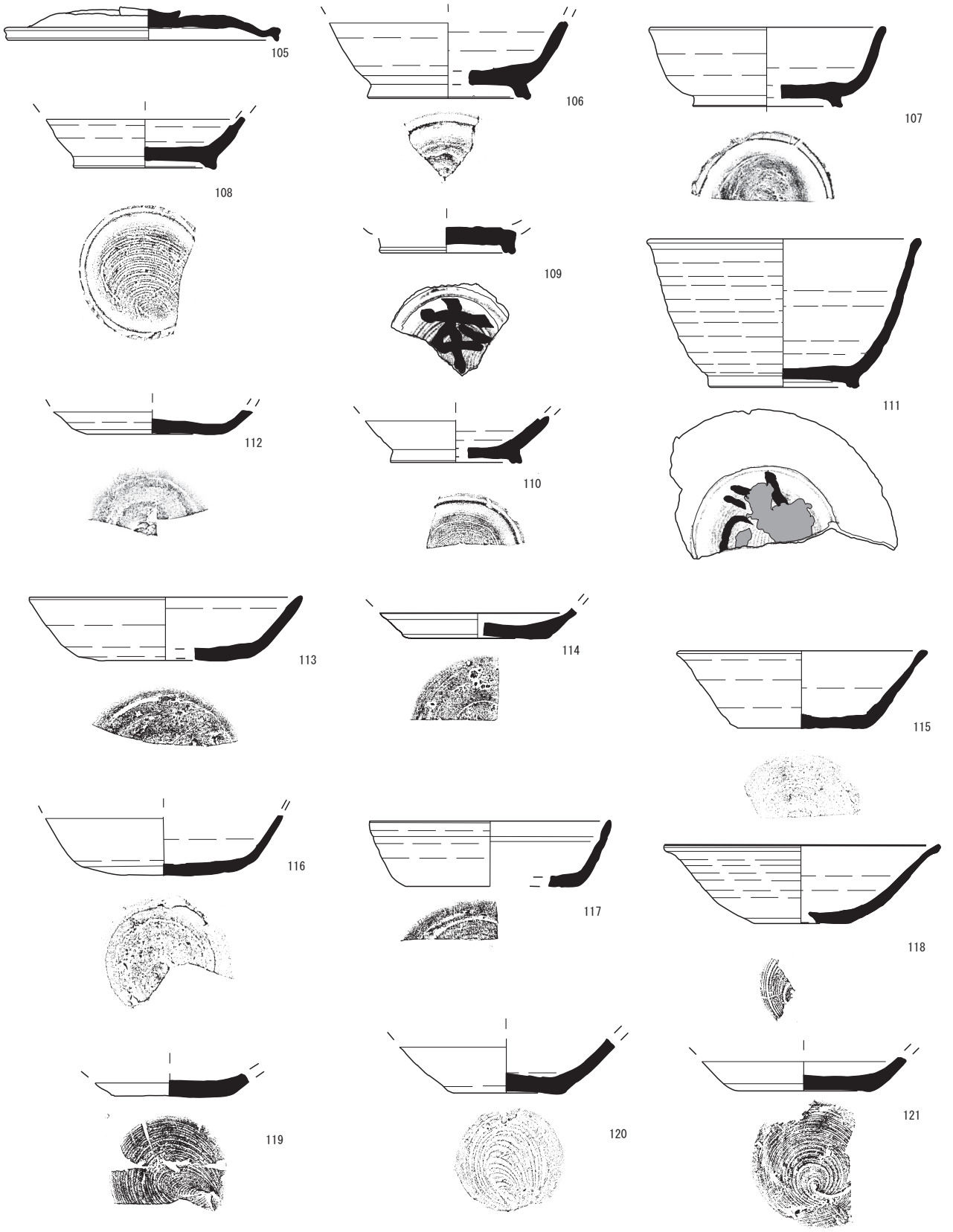
その他、墨書土器（109・111・124・129）がⅣ層・Ⅴ層から確認されたが、墨痕の残りが悪く、字形や土器そのものの器形も多岐にわたり、字形が判読できたものはなかった。

土師器については、甕の破片を主として大量の破片が確認されたが（157 ～ 179）、全体が接合した個体は無かった。体部の内外面にハケ目を施し、口縁部にナデを施す調整のものが大半であった。
底部痕跡には木葉痕とムシロ痕のもの、どちらも確認された。

その他、灰釉陶器皿（194）が 1 点確認された。内面に灰釉が施され、体部のカーブが一定でなく、耳皿となる可能性も推定される。

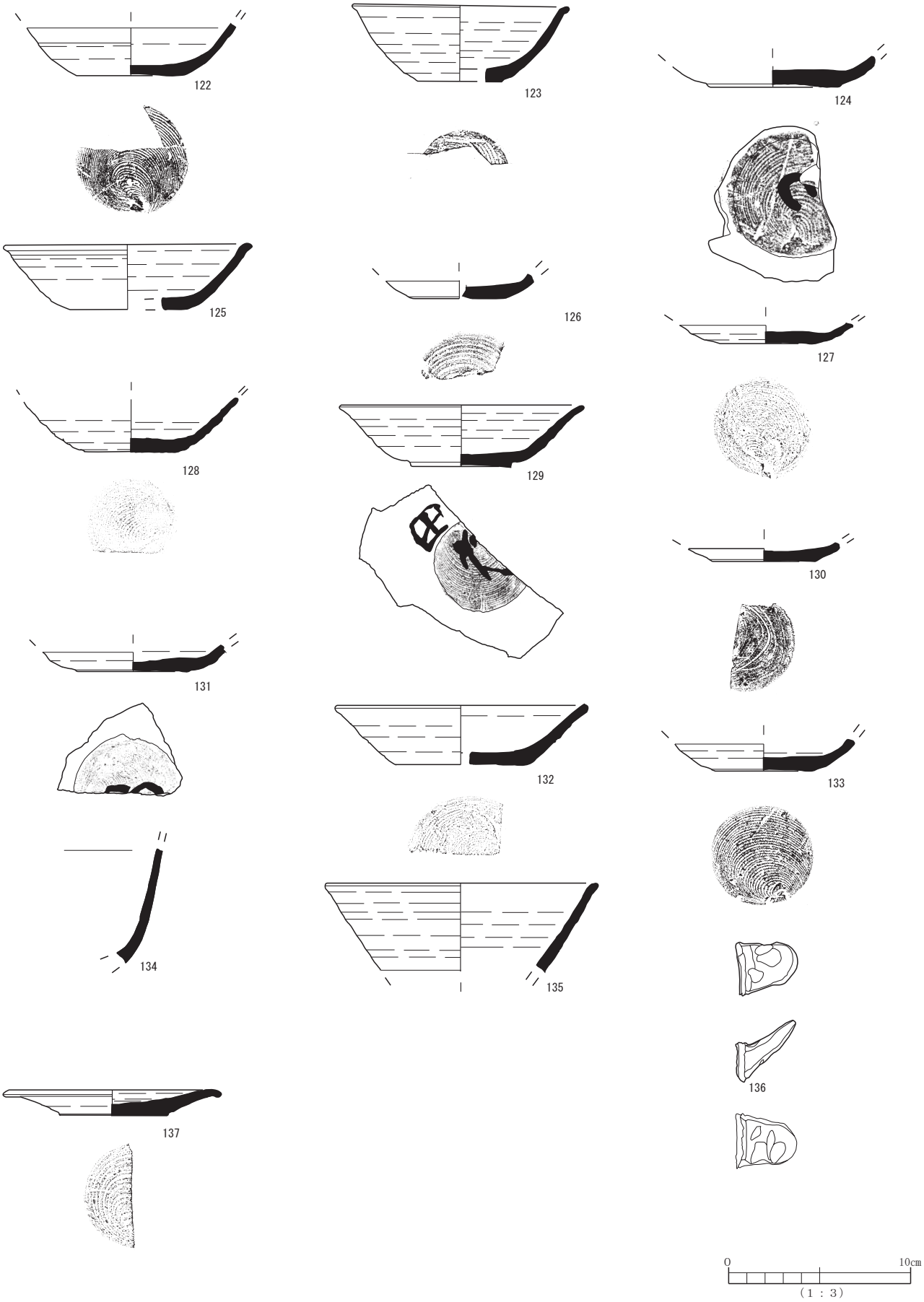


第37図　Ⅵ層・Ⅴb層・Ⅴc層・Ⅳ層・Ⅱ層出土遺物

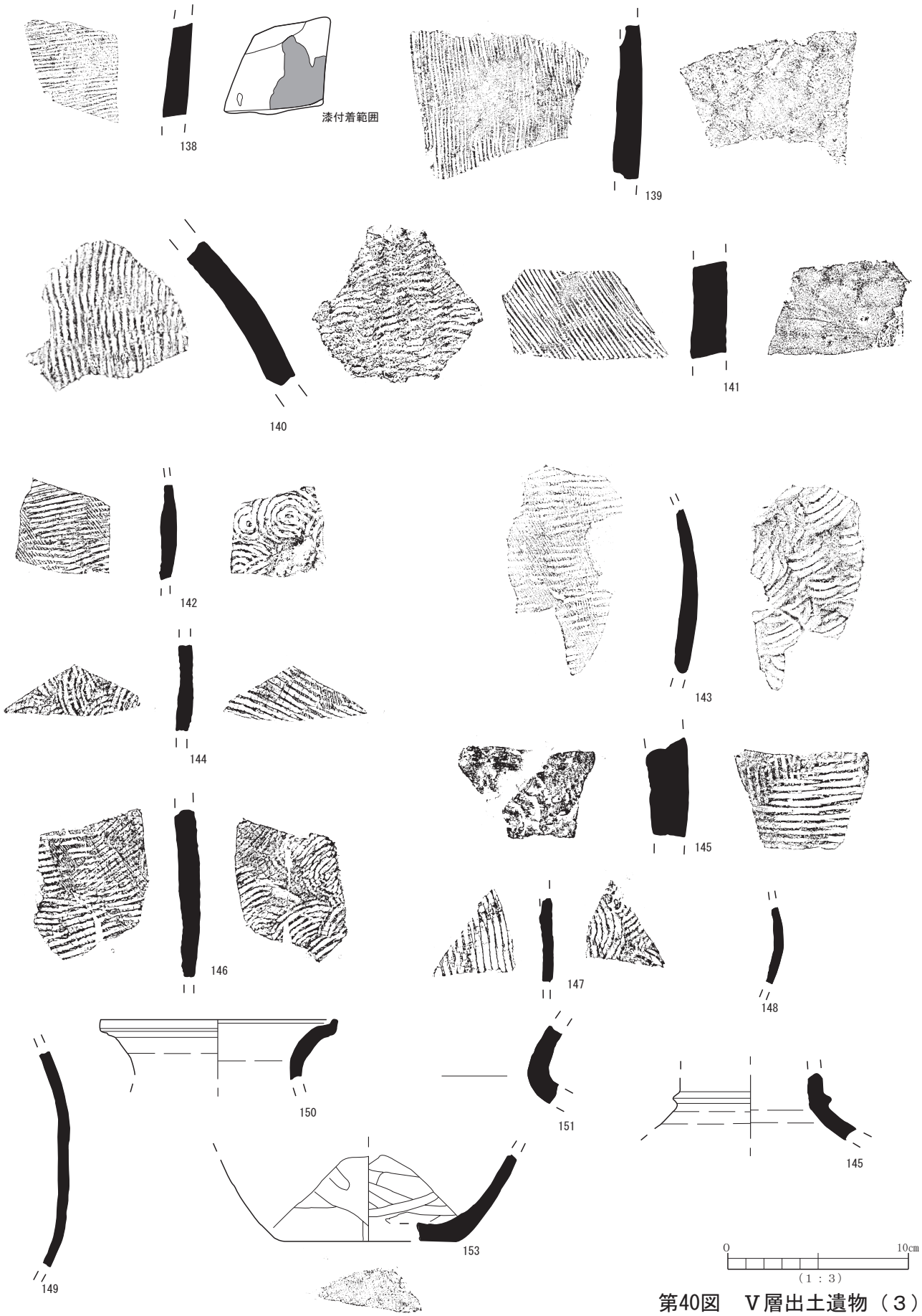


0　10cm
（1：3）

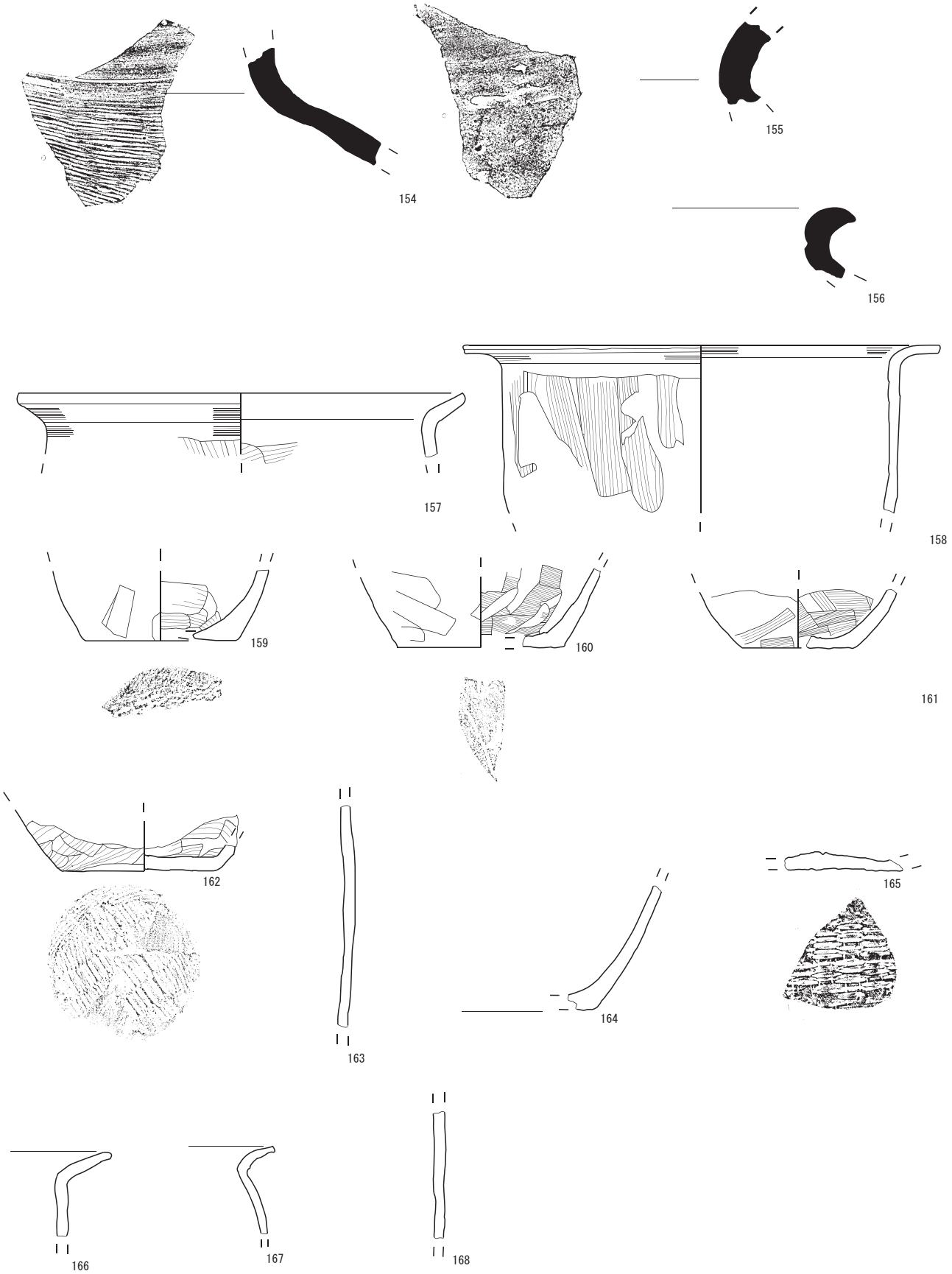
第38図　Ⅴ層出土遺物（１）



第39図　Ⅴ層出土遺物（２）

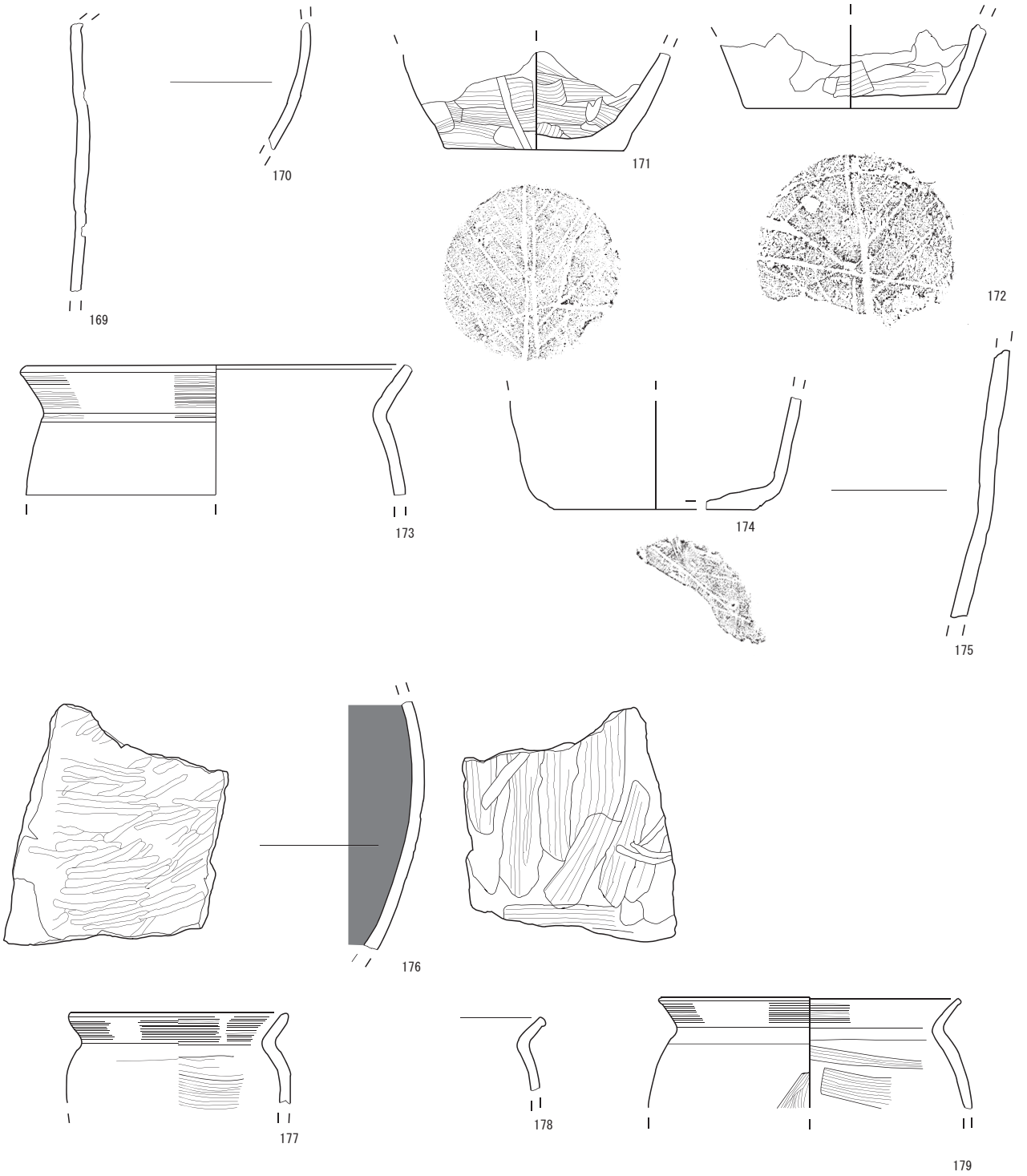


第40図　Ⅴ層出土遺物（３）

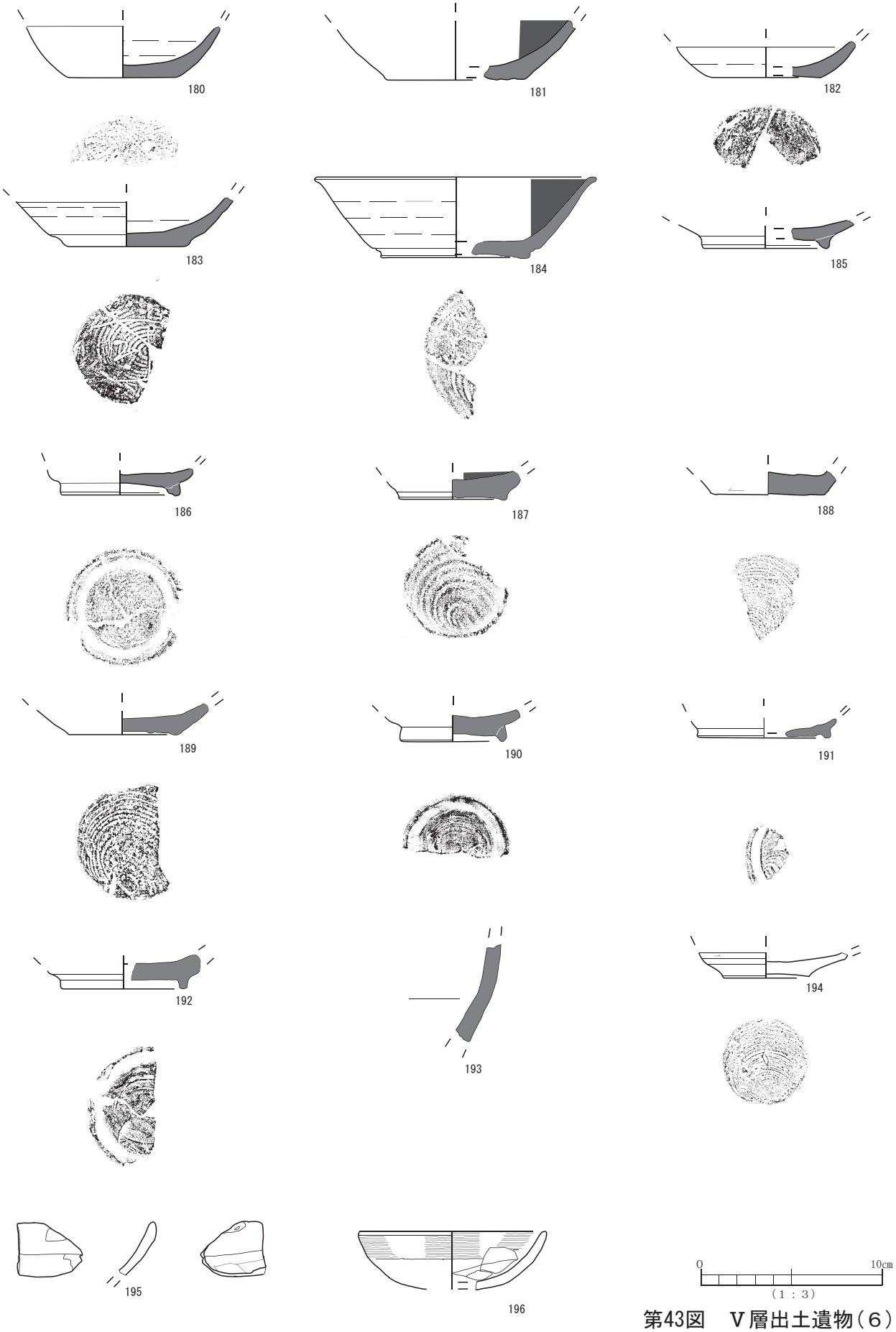


第41図　Ⅴ層出土遺物（４）

54



第42図　Ⅴ層出土遺物（５）



第43図　Ⅴ層出土遺物（6）

表１　梅野木前１遺跡土層注記

遺構記号	遺構番号	層位	土　色	土　質	備　考	挿図	図版
SD	1	1	10YR2/1	粘質シルト	立ち上がりは地山砂混じる	31	15
		2	10YR2/1	粘質シルト	均質。		
		3	2.5Y5/2	粗砂	2層のブロック混じる		
		4	2.5Y5/2	粗砂	地山。		
SP	2	1	10YR2/1	砂	同色のシルト混じる。遺物含む。柱根。	31	14
		2	2.5Y5/2	砂	1層のブロック含む。崩落土。		
SP	3	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。地山の砂大量に混じり、マンガン斑あり。	33	－
SP	4	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。均質。遺物含む。SD1の2層と似る。区分不明瞭。伴うか？	33	15
SP	5	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂（2.5Y5/2）ブロック混じる。10YR2/1粘質シルトブロック（径10mm）微量に混じる。	18	－
		2	2.5Y5/2	細砂	10YR3/1粘質シルトブロック含む。崩落土？		
SP	6	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。立ち上がりは地山層ブロック（2.5Y5/2細砂）混じる。	18	－
SP	7	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂（2.5Y5/2）ブロック含む。	18	9
SP	8	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂（2.5Y5/2）ブロック含む。	18	8
SP	9	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。均質。	18	8
		2	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック含む。		
SP	10	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。均質。	18	8
		2	10YR2/1	粘質シルト	2.5Y4/1砂を粒状（径2mm）に含む。		
		3	2.5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルト粒状（径5mm）に含む。		
SP	11	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	18	8
		2	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。		
SP	12	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。アタリか？ 5Y4/1細砂ブロック含む。	23	9
		2	5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルト粒状（径2～5mm）に含む。崩落土。		
SP	13	1	10YR2/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック含む。	23	9
SP	14	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。先端杭状。	23	9
SP	15	1	10YR3/2	粘質シルト	砂混じる。2.5Y4/1砂（地山）粒状（径5mm）に含む。	23	9
SD	16	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂（2.5Y5/2）ブロック混じる。	18	9
		2	10YR3/1	粘質シルト	Ⅵ層砂10％混じる。		
SP	17	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。	18	9　13
		2	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂（2.5Y5/2）ブロック混じる。		
		3	2.5Y5/2	砂	地山。		
SK	18	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック混じる。	23	7
		2	10YR2/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック多量に含む。		
		3	10YR3/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック含む。		
		4	5Y5/1	砂	10YR粘質シルト帯状に含む。		
SP	19	1	5Y5/1	砂	10YR2/1粘質シルトブロック含む。	23	12
SD	20	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。10YR3/2粘質シルトブロック含む。	18	9
		2	10YR2/1		砂混じる。10YR2/1粘質シルトブロック含む。		
SP	21	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。10YR2/2粘質シルトブロック含む。	18	10
		2	2.5Y5/2	砂	10YR2/1粘質シルトブロック含む。		
SP	22	1	10YR3/1	粘質シルト	2.5Y5/2砂ブロック含む。	18	10
		2	2.5Y5/2	砂	10YR3/1粘質シルトブロック含む。10YR5/2粘土ブロック含む。		
SP	23	1	10YR2/1	粘質シルト	砂含む。上部に7.5YR4/1粘質シルトブロック含む。	18	11
		2	10YR2/1	粘質シルト	均質。		
		3	10YR2/1	粘質シルト	2.5Y5/2砂ブロック含む。		
		4	2.5Y5/2	砂	10YR2/1粘質シルトブロック含む。		
SP	24	1	10YR2/1	粘質シルト	均質。	18	10
		2	10YR2/1	粘質シルト	2.5Y5/2砂ブロック含む。		
SP	25	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。	18	10
		2	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。		
SP	26	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。	18	11
		2	2.5Y5/2	砂	10YR3/1粘質シルトブロック含む。		
		3	10YR2/1	粘質シルト	10YR5/2粘土ブロック含む。SP29の崩れか？		
SP	27	1	7.5YR4/1	粘質シルト	砂混じる。	18	11
		2	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。下部に2.5Y5/2砂ブロック混じる。		
		3	2.5Y5/2	砂	10YR3/1粘質シルトブロック含む。SP29の崩れか？		
SP	28	1	10YR2/1	粘質シルト	2.5Y5/2砂ブロック含む。	18	12
		2	10YR2/1	粘質シルト	均質。		
SP	30	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。2.5Y5/2砂ブロック含む。	18	12
		2	10YR5/2	粘土	2.5Y5/2砂混じる。		
SP	31	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。	18	12
		2	10YR3/1	粘質シルト	均質。		
		3	2.5Y5/2	砂	均質。地山。		
SK	32	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR5/2粘土ブロック含む。7.5Y4/1粘土ブロック含む。	18	12
		2	2.5Y5/2	砂	10YR5/2粘土ブロック含む。		
		3	2.5Y5/2	砂	10YR5/2粘土ブロック帯状に含む。		
SP	33	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック含む。	18	8
		2	5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルトブロック含む。		
SP	34	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。５Y5/1砂（地山ブロック）混じる。	18	11
	（SD16）	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。	18	11
SD	35	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック含む。	18	11
SD	36（西側ベルト）	1	10YR3/1	粗砂	酸化鉄斑紋微量に混じる。	35	18
SD	36（東側ベルト）	1	10YR3/1	細砂	10YR8/4のⅥ層由来？シルトをφ２～3cm大ブロックで底に５％含む。	35	18
		2	10YR8/4	シルト	Ⅴ層の下方にまとまって堆積する。火山灰のようにさらさらする。		
SI	37	1	10YR2/2	細砂	粘性あり。10YR5/1細砂を径3～4cmブロックで20％含む。遺物多く含む。	12	4　5　18
		2	10YR2/1	シルト	粘性あり。1層に比べ10YR5/1ブロック多く、30％含む。		
		3	10YR7/2	細砂	径3～5cm大ブロックで堆積する。短期間に堆積したものか。		

遺構記号	遺構番号	層位	土　色	土　質	備　考	挿図	図版
SI	37	4	10YR2/1	シルト	10YR3/2細砂径3㎝大ブロックで60％含む。東側で粒状小さくなる。	12	4　5　18
		5	10YR3/1	細砂	Ⅵ層由来の2.5Y7/1細砂ブロック10％含まれる。1層よりシルト質多い。		
SK	38	1	10YR2/1	シルト	粘質あり。Ⅴ層由来のフク土・粗砂多く混じる。	33	13　18
		2	10YR2/3	細砂	Ⅵ層の細砂を径1㎝大BLで5％含む。		
SD	39	1	10YR2/1	細砂	Ⅵ層の細砂が下部にレンズ状に堆積。	33	－
		2	10YR5/1	細砂	壁面に平行してラミナ状にⅥ層細砂堆積する。		
		3	10YR4/2	細砂	下方にⅤ層が10％まとまって堆積する。		
SD	40	1	10YR2/2	粘質シルト	粗砂多く混じる。	9	－
SG	41	1	10YR2/1	シルト	粗砂多く含む。Ⅴ層と酷似。	34	18
		2	10YR5/3	粗砂	鉄分多く含む。		
SP	42	1	2.5Y4/1	砂	10YR4/1粘質シルト粒（径5～10㎜）含む。	26	15
SP	43	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	26	－
SP	45	1	7.5YR2/1	粘質シルト	砂混じる。マンガン斑有り。	27	－
		2	10YR3/1	粘質シルト	7.5YR2/1粘質シルト粒（径5～10㎜）・2.5Y4/1砂粒（径5～10㎜）含む。マンガン斑有。		
		3	10YR3/1	粘質シルト	7.5YR2/1粘質シルトブロック（径20～30㎜）含む。		
		4	2.5Y4/1	砂	10YR3/1粘質シルト帯状に含む。		
SP	46	1	2.5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5～10㎜）含む。	26	－
SP	47	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。2.5Y4/1砂ブロック（径5～20㎜）含む。	27	－
		2	2.5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。		
SP	48	1	2.5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。	27	－
SP	50	1	10YR3/2	砂	2.5Y5/2砂混じる。	27	15
		2	2.5Y5/2	砂	10YR3/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。10YR3/2砂粒（径5㎜）含む。		
SP	51	1	7.5YR3/1	粘質シルト	砂混じる。2.5Y5/2砂ブロック（径50㎜）含む。	27	－
SP	52	1	10YR4/1	粘質シルト	10YR2/1粘質シルト粒（径10～30㎜）含む。※他のピットと明らかに覆土異なる。水田耕作の表土に似る。	27	－
SP	53	1	2.5Y5/2	砂	10YR2/1粘質シルト粒（径10㎜）・10YR5/2細砂ブロック（径10～30㎜）含む。	27	－
		2	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。		
SP	54	1	2.5Y4/1	砂	10YR3/1粘質シルトブロック（径10～20㎜）含む。	27	－
SP	55	1	10YR3/1	粘質シルト	2.5Y4/1砂ブロック（径10～30㎜）含む。	27	－
SP	56	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1砂ブロック（径10㎜）・2.5Y5.2砂ブロック（径20～40㎜）ブロック含む。	27	－
SP	57	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。2.5Y4/1砂ブロック（径5～10㎜）含む。	27	－
SP	62	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。	27	－
		2	10YR2/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径20～40㎜）混じる。		
SP	63	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	27	－
SP	64	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	27	－
SP	66	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	27	－
SP	67	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	27	－
SP	68	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック（径5～10㎜）混じる。	27	－
SP	69	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR5/2細砂ブロック（径20㎜）含む。風化凝灰岩角礫（径５㎜）含む。	27	－
		2	2.5Y4/1	砂質シルト	10YR2/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。風化凝灰岩角礫（径５㎜）含む。		
SP	70	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。2.5Y4/1砂ブロック（径10～20㎜）含む。	27	－
SP	71	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。2.5Y4/1砂ブロック（径20～30㎜）含む。	27	－
		2	2.5Y4/1	砂	10YR3/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。		
SP	72	1	10YR3/1	粘質シルト	2.5Y4/1砂ブロック（径20～30㎜）含む。	27	－
		2	2.5Y4/1	砂	10YR3/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。		
SP	73	1	2.5Y4/1	細砂	10YR2/1粘質シルト粒（径10～30㎜）含む。	27	－
SP	74	1	10YR2/1	粘質シルト	2.5Y5/1ブロック（径3㎜）含む。	27	－
		2	2.5Y4/1	砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5㎜）含む。		
SP	75	1	2.5Y4/1	細砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5～10㎜）含む。	27	－
SP	76	1	2.5Y4/1	細砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5～10㎜）含む。	27	－
SP	77	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1細砂粒（径10～20㎜）含む。	27	－
SI	80	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。10YR5/1細砂ブロック（径30㎜）含む。	14	5
SD	81	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。Ⅴ層との区別不明瞭。	24	4　5
SD	82	1	10YR2/1	シルト	Ⅵ層由来の2.5Y7/1細砂ブロックを5％、径1～4㎝大ブロックで含む。北に向かうとブロックの含有率増える。	12	－
SD	82（D－D′）	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。10YR5/1細砂ブロック（径20～50㎜）含む。	12	－
		2	10YR5/1	細砂	10YR2/1粘質シルト粒（径5～10㎜）含む。		
SP	84	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック含む。	25	－
		2	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。砂10YR2/1粘質シルトブロック含む。		
SP	85	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック微量・10YR4/2粘質シルトブロック微量に含む。	25	－
		2	5Y4/1	砂	10YR3/1粘質シルトブロック含む。		
SP	86	1	10YR3/1	粘質シルト	ほぼ均質。5Y4/1砂ブロック混じる。	25	－
SP	87	1	10YR3/1	粘質シルト	10YR2/1粘質シルト粒状に含む。5Y4/1砂ブロック含む。	25	－
SP	88	1	10YR3/1	粘質シルト	ほぼ均質。5Y4/1砂混じる。	25	－
SP	89	1	10YR3/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック含む。	25	－
SP	90	1	10YR3/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック含む。	25	－
SP	91	1	10YR2/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック含む。	25	－
SP	92	1	10YR3/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック含む。	25	－
SP	93	1	10YR3/1	砂	10YR3/2粘質シルトブロック含む。マンガン斑あり。	25	－
SP	94	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。10YR5/1細砂ブロック（径10～20㎜）含む。Ⅴ層とほぼ同じ。	24	－
SD	96	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック含む。	24	14
SP	98	1	10YR2/3	シルト	粗砂わずかに混じる。	29	－
		2	10YR4/1	シルト	細砂わずかに混じる。		
SP	99	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。マンガン斑有り。5Y5/1砂ブロック（径20㎜）含む。	29	－
SP	103	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。下部に炭化物の層。	29	－
		2	2.5Y4/1	砂	10YR3/1粘質シルト混じる。		
SP	104	1	10YR4/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック（径20～50㎜）含む。	29	－
SP	105	1	10YR3/1	粘質シルト	7.5YR5/1砂ブロック（径5～20㎜）含む。	29	－
		2	7.5YR5/1	砂	10YR3/1粘質シルトブロック（径50㎜）含む。		
SP	106	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック（径50㎜）含む。	29	－

遺構記号	遺構番号	層位	土　色	土　質	備　考	挿図	図版
SP	106	2	5Y5/1	砂	10YR3/1粘質シルトブロック（径10㎜）含む。	29	－
SP	108	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック（径50㎜）含む。	29	－
SP	109	1	10YR4/1	砂	5Y5/1砂ブロック混じる。	29	18
SP	110	1	7.5Y5/1	砂	10YR4/1粘質シルトブロック（径10㎜）含む。マンガン斑あり。	29	－
		2	10YR4/1	粘質シルト	7.5Y5/1砂混じる。マンガン斑有り。		
SD	112	1	10YR3/2	細砂	マンガン斑・炭化物ブロック（径5㎜）僅かに混じる。SX139より黄色味かかる。	15	－
SD	113（145）	1	10YR2/3	粗砂	均質。	20	16
SD	113（159・145）	1	10YR4/1	細砂	炭化物わずかに含む。	20	16　17
SD	113	1	10YR3/2	粘質シルト	砂混じる。マンガン斑有り。5Y5/1砂ブロック（径10㎜）含む。	20	16　17
		2	10YR3/2	粘質シルト	砂混じる。10YR2/1粘質シルトブロック（径10㎜）・5Y5/1砂ブロック（径5～10㎜）含む。		
SD	114	1	10YR3/2	粘質シルト	砂混じる。マンガン斑有。上層の土、あるいはSD113の1層と近似。	20	16　17
SD	115	1	10YR3/2	粘質シルト	砂混じる。マンガン斑紋あり（Ⅴb層と近似）。	20	－
SP	116	1	10YR2/1	粘質シルト	砂混じる。10YR4/1砂ブロック含む。	24	17
SP	117	1	10YR2/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径20㎜）・10YR4/1粘質シルトブロック（径10～30㎜）含む。	30	－
SP	118	1	10YR2/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径20㎜）・10YR4/1粘質シルトブロック（径5～10㎜）含む。	30	－
SP	119	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1粘質シルトブロック（径40㎜）・5Y5/1砂ブロック（径20～40㎜）含む。	30	－
SP	120	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1粘質シルトブロック（径10～30㎜）含む。	7 30	－
SP	121	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1粘質シルトブロック（径10㎜）含む。	30	－
SP	122	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1粘質シルトブロック（径5～10㎜）含む。	30	－
SD	123	1	10YR4/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径20㎜）含む。	30	19
SP	124	1	10YR2/1	粘質シルト	ほぼ均質。	30	－
		2	10YR2/1	粘質シルト	10YR3/1粘質シルトブロック（径50㎜）・5Y5/1砂ブロック（径40～100㎜）含む。		
SD	125	1	10YR2/1	シルト	下方に10YR6/1シルト（径30～50㎜）ブロック10％含む。	7 31	15
SD	126（141）	1	5Y6/1	細砂	10YR3/1粘質シルトブロック（径10㎜）含む。	20	17
		2	10YR2/1	砂質シルト	5Y6/1細砂ブロック（径10㎜）含む。		
SD	126（145・148）	1	10YR3/2	細砂	10YR2/1シルトブロック（径20㎜）5％含む。	20	－
SP	127	1	10YR3/1	粘質シルト	均質。	20	18
		2	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1粘質シルトブロック（径5～10㎜）含む。		
		3	10YR4/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径20㎜）含む。		
SP	128	1	10YR2/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径5㎜）含む。	26	－
		2	10YR2/1	粘質シルト	10YR4/1細砂ブロック含む。		
SD	131	1	N2	シルト	炭化物多く含む。	20	－
SP	132	1	10YR3/1	粘質シルト	2.5Y5/1細砂ブロック（径30㎜）含む。	20	－
SP	133	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。マンガン斑有り。	20	－
SP	134	1	10YR3/1	砂質シルト	5Y5/1砂混じる。	15	17
SP	135	1	10YR3/1	粘質シルト	砂混じる。	30	－
		2	5Y5/1	粘質シルト	10YR4/1粘質シルトブロック（径20㎜）含む。10YR2/1粘質シルト帯状に含む。		
SP	136	1	10YR2/1	粘質シルト	10YR3/2　粘土ブロック（径30㎜）含む。5Y5/1砂ブロック（径30㎜）含む。	32	－
SP	138	1	10YR4/1	粗砂	10YR7/1シルト50％混じる。	20	17
		2	10YR2/2	粗砂	Ⅵ層由来の10YR5/2粗砂が層状に30％混じる。		
SX	139	1	10YR4/2	細砂	炭化物ブロック（径5～7㎜）を全体に10％含む。	15	6
SX	139（140・112）	1	10YR3/2	粗砂	全体的に炭化物混じる。	15	－
SX	140	1	10YR5/2	シルト	炭化物及び10YR6/3シルトブロック（径20㎜）を層状に含む。西壁より黄色味かかる。若干焼土混じる。	7	－
SP	141	1	10YR4/1	粗砂	均質。	20	－
SD	142（172・150）	1	10YR3/2	粗砂	マンガン粒わずかに混じる。	20	－
SD	143	1	10YR4/1	粗砂	均質。	7	－
SP	144	1	10YR4/1	細砂	均質。	20	－
SD	145（113）	1	10YR4/1	粗砂	均質。	20	16　17
SD	145（148・126）	1	10YR4/1	粗砂	炭化物わずかに混じる。	－	16　17
SK	146	1	10YR4/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径30～50㎜）含む。下部にマンガン斑。	20	－
SD	148（145・126）	1	10YR2/1	細砂	Ⅵ層粗砂40％含む。	－	17
SD	148（159・113）	1	10YR3/3	シルト	均質。	20	－
SP	149	1	10YR4/1	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（径20～30㎜）・10YR4/1粘土ブロック（径20㎝）含む。	20	－
SP	150（172・142）	1	10YR4/1	粘質シルト	マンガン粒わずかに混じる。	20	－
SP	151	1	10YR2/2	細砂	白色粗砂わずかに混じる。	20	－
SP	158	1	10YR5/1	細砂	炭化物粒わずかに混じる。	20	17
		2	10YR7/1	シルト	酸化鉄斑紋微量に混じる。		
SP	159	1	10YR5/1	細砂	炭化物粒（径10㎜）で5％含む。	20	16
SD	171（142・150）	1	10YR2/3	粗砂	均質。	20	－
SD	172	1	10YR5/1	細砂	マンガン粒微量に含む。	20	16
		2	10YR7/2	粗砂	わずかに炭化物含む。		
	H-3～9西壁					7	－
	H-10～16西壁					7	19
	H-17～22西壁					7	19
	H-23～25西壁					7	13
	C～H-9北壁					8	19
	C～H-16北壁					8	－
	D～H-22北壁					8	－
	E-2～4東壁					9	－
	H-2～4東壁					9	－
	E-6～8東壁					9	13
	G-6～8東壁					9	－
	E-10～12東壁					9	－
	G-10～12東壁					9	－
	E-13～15東壁					9	－
	G-13～15東壁					9	－
	E-18～21東壁					10	－
	G-18～21東壁					10	－

表２　梅野木前１遺跡柱穴観察表

SP番号	所在グリッド			平面形状	深さ（cm）	備　　考	挿図	図版
134	I	―	16	不整形	20	覆土がVC層に酷似。遺物なし。	15	17
7	F	―	7	円形	10	SB169及び170との関連不明。	17	―
8	F	―	7	円形	8	SB169及び170との関連不明。	17	―
30	D	―	7	不整形	12	覆土はあいまい。落ち込みか？	17	12
33	F	―	7	円形	20	SP8との切り合い不明。	17	12
144	I	―	18	円形	10	土師器小破片出土。	19	―
159	I	―	18	円形	10	SD113西に隣接するが、切り合い不明。	19	―
158	I	―	19	円形	15	ブラウンの粘質シルト覆土。	19	17
160	I	―	20	円形	―	土師器（30）出土。	19	―
161	I	―	20	円形	―	土師器（31）出土。	19	―
12	G	―	7	円形	15		23	―
13	G	―	7	円形	10	非常に浅い。	23	―
14	G	―	7	円形	18		23	13
19	G	―	7	円形	23		23	12
116	I	―	17	円形	8	被熱礫（53）出土。	24	17
94	E	―	9	円形	15		24	―
84	D	―	13	楕円形	22		25	―
85	D	―	13	不整形	15		25	―
86	D	―	14	楕円形	10		25	―
87	D	―	14	楕円形	15		25	―
88	D	―	14	円形	10		25	―
89	D	―	14	円形	5	SP90に切られる。	25	―
90	D	―	14	不整形	10	SP89を切る。	25	―
91	D	―	14	円形	10	SP92を切る。	25	―
92	D	―	14	円形	12	SP91に切られる。	25	―
93	E	―	13	不整形	20		25	―
43	I	―	9	円形	20		26	―
42	I	―	9	不整形	20	柱根（56）出土。	26	15
128	I	―	8	不整形	20		26	―
64	H	―	9	円形	10		26	―
63	H	―	9	円形	20		26	―
62	H	―	9	不整形	20		26	―
45	I	―	9	不整形	20		26	―
46	I	―	9	円形	20	柱根（57）出土。	26	―
68	I	―	10	円形	14		27	―
57	I	―	10	円形	16		27	―
47	I	―	10	円形	22	SP48を切る。	27	―
48	I	―	10	円形	18	SP47に切られる。	27	―
54	I	―	10	円形	18	SP55を切る。	27	―
55	I	―	10	円形	14	SP54に切られる。	27	―
56	I	―	10	円形	10		27	―
66	I	―	10	円形	22		27	―
50	I	―	10	円形	20	柱根（59）出土。	27	15
70	I	―	10	円形	22		27	―
67	I	―	10	円形	10		27	―
51	I	―	10	不整形	20		27	―
72	I	―	10	円形	20		27	―
71	I	―	10	円形	20		27	―
74	I	―	10	円形	25		27	―
75	I	―	10	円形	10		27	―
76	I	―	10	円形	10		27	―
73	I	―	10	円形	16		27	―
69	I	―	10	円形	32	深い。	27	―
52	I	―	10	円形	15	SP53に切られる。	27	―
53	I	―	10	円形	20	SP52を切る。	27	―
77	I	―	11	円形	12		27	―
98	G	―	16	楕円形	22	柱根（60）出土。	29	―
99	G	―	16	円形	12	掘り過ぎか？	29	―
105	F	―	16	方形	18		29	―
106	G	―	16	円形	20		29	―
108	F	―	16	円形	16		29	―
109	F	―	16	楕円形	16		29	18
110	F	―	16	円形	40	掘りすぎか？	29	―
103	E	―	16	楕円形	10		29	―
104	E	―	16	円形	18		29	―
117	I	―	24	円形	20	深い。	30	―
118	I	―	24	円形	15		30	―
119	I	―	24	円形	20	SP124に切られる。	30	―
124	I	―	25	円形	16	SP119を切る。	30	―
120	H	―	25	円形	18		30	―
121	I	―	25	円形	14	覆土粘性強い。ほぼ均質。	30	―
122	I	―	25	円形	18		30	―
135	H	―	25	円形	14		30	―
136	I	―	25	方形	12		30	―
3	F	―	18	円形	12		31	14
2	F	―	18	円形	14		31	14
4	F	―	19	円形	10	SD1内。切り合い不明。覆土SD1に類似。	31	15

表３　梅野木前１遺跡出土遺物観察表

番号	グリッド	出土遺構	器種	種別	口径	底径	器高	外面	内面	底部	備考	挿図	図版
1	I-17	SI37F1	須恵器	無台坏	(13.8)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	体部外面墨書有。	13	26
2	F-10	SI37	木製品	木簡	-	-	-				内容附篇参照。	13	20　21
3	F-10	SI37	木製品	木簡状木製品	-	-	-				墨痕確認できず。	13	21
4	F-10	SI37F1	石製品	被熱礫	-	-	-				外面に被熱痕。煤かすかに付着。	13	27
5	F-10	SI37F1	石製品	磨石状石製品	-	-	-				全面に擦痕有り	13	21
6	G-10	SI37F1	石製品	被熱礫	-	-	-			炭化物非常に多い		13	29
7	F-10	SI37F2	石製品	被熱礫	-	-	-					13	21
8	E-9	SI80F2	須恵器	無台坏	-	6.6	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面墨書有り。	14	21
9	E-9	SI80F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明	内面被熱。擦痕有り。	14	21
10	F-9	SI80F1	須恵器	甕	-	-	-	ハケ目	ナデ	平底		14	21
11	F-9	SI80F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		14	21　30
12	F-9	SI80F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		14	21
13	I-17	SX139F1	須恵器	蓋	(16.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	砂粒まばらに含む。	15	29
14	I-18	SX139F1	須恵器	蓋	(15.6)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	篦→ナデ		15	29
15	I-18	SX139F1	須恵器	坏	(12.4)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		15	26
16	I-18	SX139F1	須恵器	無台坏	-	-	-	不明	ロクロナデ	回転糸切	底面墨書有り。	15	26
17	I-17	SX139F1	須恵器	甕	(17.8)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		15	29
18	I-17	SX139F1	土師器	甕	(24.1)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		15	22
19	I-18	SX139F1	土師器	甕	(20.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		15	22
20	I-18	SX139F1	土師器	甕	(25.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		15	22
21	I-18	SX139F1	土師器	甕	(24.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ナデ	不明		15	22
22	I-17	SX139V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	外面に使用煤痕多量に付着。	15	22
23	I-18	SX139F1	土師器	甕	(24.0)	-	-	ナデ	ハケ目→ナデ	不明		15	22
24	I-18	SX139F1	土師器	中型甕	(13.2)	-	-	ハケ目	ナデ	不明		15	29
25	I-17	SX139F1	土師器	甕	(15.2)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		15	22
26	I-17	SX140F1	土師器	甕	-	(8.4)	-	ハケ目	ハケ目	木葉痕		15	29
27	F-7	SP17	木製品	柱根	-	-	-			ケズリ	長軸15.0cm	18	27
28	F-6	SP34	木製品	柱根	-	-	-			ケズリ	長軸41.0cm	18	27
29	I-20	SP127F1	須恵器	有台坏	-	7.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		21	30
30	I-20	SP160F1	土師器	甕	-	9.4	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		21	30
31	I-20	SP161F1	土師器	甕	―	(11.4)	―	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕	外面に煤多量に付着。	21	30
32	I-18	SD113F1	赤焼土器	無台坏	12.3	6.0	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		21	30
33	I-19	SD113F1	須恵器	坏	(14.2)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		21	23
34	I-19	SD113F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ナデ		21	23
35	I-19	SD113F1	須恵器	有台坏	-	(8.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		21	30
36	I-19	SD115F1	赤焼土器	無台坏	-	(6.2)	-	ロクロナデ	不明	不明		21	23
37	J-19	SD126F1	須恵器	甕	(16.4)	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		21	23
38	J-19	SD126F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		21	23
39	I-19	SD142F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		21	23
40	I-20	SD142F1	土師器	甕	-	-	-	不明	不明	ムシロ痕		21	23
41	H-20	SD143F1	須恵器	無台坏	(14.0)	(6.0)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	焼成良い。	21	30
42	H-20	SD143F1	土師器	甕	-	(8.0)	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		21	30
43	H-20	SD143F1	土師器	甕	-	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		21	23
44	I-19	SD143F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		22	23
45	I-19	SD143F1	土師器	甕	16.0	-	-	ナデ	ナデ	不明		22	23
46	I-20	SD143F1	須恵器	坏	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		22	23
47	I-18	SD145	須恵器	壺	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		22	23
48	G-11	SD36F1	須恵器系陶器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明	珠洲。	22	24
49	G-11	SD36F1	石製品	被熱レキ	-	-	-				外面に煤多量に付着。	22	24
50	G-11	SD36F1	石製品	礫	-	-	-				使用面・被熱痕跡有り。	22	24
51	G-11	SD36F1	石製品	礫	-	-	-				被熱著しい。煤多い。	22	24
52	F-7	SK18	木製品	刀代？	-	-	-				片面に刃の整形。	23	21
53	I-17	SP116F1	石製品	被熱礫	-	-	-				外面全面被熱。	24	26
54	D-14	SP87F1	須恵器	坏	(12.6)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		25	32
55	I-8	SP128F2	須恵器	無台坏	-	6.5	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		26	26
56	I-9	SP42	木製品	柱根	-	-	23.0					28	27
57	I-9	SP46	木製品	柱根	-	-	-			ケズリ	長軸22.3cm	28	27
58	I-10	SK49	木製品	柱根	-	-	-			ケズリ	長軸22.5cm	28	27
59	I-10	SP50	木製品	柱根	-	-	-			ケズリ	長軸49.0cm	28	27
60	G-16	SP98	木製品	柱根	-	-	-			ケズリ	長軸25.5cm	28	27
61	F-16	SP109	木製品	柱根	-	-	-				長軸18.5cm	28	27
62	F-19	SD1F1	須恵器	壺	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		32	26
63	F-19	SD1F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	格子状タタキ目	不明		32	29
64	I-20	SD125F1	須恵器	有台碗	-	6.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		32	29
65	I-20	SD125F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		32	26
66	I-20	SD125F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	不明	不明		32	23
67	I-20	SD125F1	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		32	-
68	I-20	SD125F1	須恵器	甕	―	―	―	タタキ目	アテ痕	不明		32	-
69	I-20	SD125F1	須恵器	甕	―	―	―	不明	アテ痕	不明		32	-
70	I-20	SD125F1	土師器	甕	-	-	-	不明	不明	木葉痕		32	28
71	I-16	SP109F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		32	30

番号	グリッド	出土遺構	器種	種別	口径	底径	器高	外面	内面	底部	備考	挿図	図版
72	C-10	SG41F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	断面のみ。	35	25
73	B-7	SG41F1	須恵器	坏	(14.0)	8.0	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		35	30
74	B-7	SG41V層	須恵器	無台坏	-	(6.8)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		35	24
75	B-5	SG41F1	須恵器	無台坏	-	(7.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		35	25
76	B-6	SG41F1	須恵器	無台坏	-	(7.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		35	25
77	B-5	SG41F1	須恵器	無台坏	14.1	4.1	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	歪み著しい。	35	30
78	B-7	SG41F1	須恵器	無台坏	(14.0)	(7.8)	4.15	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		35	30
79	B-9	SG41F1	須恵器	無台坏	-	6.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面墨書有り。	35	25
80	B-6	SG41F1	須恵器	有台坏	-	6.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		35	25
81	B-5　B-6	SG41F1　V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明	表面に擦痕あり。	35	25
82	B-6	SG41F1	須恵器	甕	(18.2)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		35	30
83	B-8	SG41F1	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		35	25
84	B-6	SG41F1	須恵器	壺	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		35	29
85	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	-	-	ハケ目→ナデ	ナデ	不明		36	30
86	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	(9.8)	-	ハケ目	ハケ目	木葉痕		36	30
87	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	(8.6)	-	ケズリ？	ハケ目	木葉痕		36	30
88	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		36	24
89	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	-	-	不明	不明	ムシロ痕		36	24
90	B-7	SG41F1	土師器	甕	(19.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		36	22
91	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目	不明		36	24
92	B-7	SG41F1	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		36	28
93	B-7	SG41F1	両黒土師器	不明	-	-	-	ケズリ	ロクロナデ	不明		36	24
94	B-7	SG41F1	土師器	無台坏	(14.2)	(7.5)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	内面に漆？付着。	36	30
95	B-7	SG41F1	土師器	無台坏	-	(8.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		36	30
96	B-7	SG41F1	赤焼土器	無台坏	(13.9)	(7.9)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		36	25
97	B-8	SG41F1	赤焼土器	無台坏	-	(5.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面に墨書「石」。	36	24
98	B-7	SG41F1	磁器	白磁碗	-	-	-			不明	内外面施釉。白磁碗のV類か。	36	26
99	B-10	SG41F1	石製品	砥石	-	-	-					36	25
100	E-11	SG41Vb層	土師器	坏	(12.0)	-	-	ケズリ	ミガキ	不明		36	26
101	B-9	SG41F2	須恵器	無台坏	15.8	7.4	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	内面に煤？	36	31
102	G-9	Ⅵ層	木製品	柱根	-	-	-				長軸31.0cm	37	27
103	I-25	Vb層	須恵器	蓋	(15.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		37	31
104	I-19	Vc層	須恵器	平瓶	4.8	7.6	7.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切→ナデ	ゆがみ多い。	37	1
105	I-18	V層	須恵器	蓋	14.4	-	1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	歪み目立つ。	38	31
106	I-19	V層	須恵器	有台坏	-	(8.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	31
107	J-20	V層	須恵器	有台坏	(12.6)	8.0	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	31
108	F-12	V層	須恵器	有台坏	-	7.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		38	31
109	G-14	V層	須恵器	有台坏	-	(7.0)	-	ロクロナデ	摩滅のため不明	静止糸切	底面に墨書有り。	38	26
110	B-6	V層	須恵器	有台坏	-	(7.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		38	31
111	I-17	V層	須恵器	有台坏	(14.4)	7.8	8.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面に墨書有り。	38	31
112	I-19	V層	須恵器	坏	-	(7.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	25
113	B-7	V層	須恵器	無台坏	(14.6)	(8.8)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	25
114	I‐20	V層	須恵器	無台坏？	-	(7.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	25
115	I-17	V層	須恵器	無台坏	13.0	(6.8)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	31
116	I-21	V層	須恵器	有台坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転篦切		38	26
117	I-17	V層	須恵器	無台坏	(12.8)	(9.0)	9.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ		38	31
118	B-5	V層	須恵器	無台坏	14.8	(5.0)	4.25	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		38	31
119	I-20	V層	須恵器	坏	-	6.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		38	-
120	B-5	V層	須恵器	無台坏	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		38	31
121	B-6	V層	須恵器	無台坏	-	7.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		38	25
122	B-6	V層	須恵器	無台坏	-	6.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	25
123	E-11	V層	須恵器	無台坏	12.0	4.6	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	-
124	G-3	V層	須恵器	無台坏	-	6.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	31
125	I-17	V層	須恵器	無台坏	(13.6)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	31
126	I-19	V層	須恵器	無台坏	-	(5.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面墨書有り。	39	25
127	I-20	V層	須恵器	無台坏	-	5.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	25　31
128	I-20	V層	須恵器	無台坏	-	5.1	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	31
129	I-20	V層	須恵器	無台坏	(13.4)	5.4	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面及び体部外面墨書有り。	39	31
130	I-20	V層	須恵器	無台坏	-	(5.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明糸切	底部の調整不明。	39	25
131	I-24	V層	須恵器	無台坏	-	(6.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面墨書有り。	39	25
132	I-6	V層	須恵器	無台坏	(13.8)	(7.4)	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	-
133	J-20	V層	須恵器	無台坏	-	5.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	25
134	I-20	V層	須恵器	坏	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		39	25
135	I-20	V層	須恵器	有台坏	(15.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	I-19Ⅳ層と接合。	39	25
136	B-5	V層	須恵器	耳付坏	-	-	-	ユビナデ	ロクロナデ	不明	耳のみ。	39	26
137	I-20	V層	須恵器	皿	(12.0)	6.0	1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		39	31
138	B-10	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明	内面漆付着。外面擦痕あり。	40	23
139	B-6	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	23
140	B-6	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕		内面磨滅。	40	23
141	F-12	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	23
142	I-17	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	23
143	I-19	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	23
144	I-20	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	26
145	I-20	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	23
146	I-20	V層	須恵器	甕	―	―	―	タタキ目	アテ痕	不明		40	-
147	I-21	V層	須恵器	甕	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		40	23
148	I-20	V層	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ→カキ目	ロクロナデ	不明		40	23

番号	グリッド	出土遺構	器種	種別	口径	底径	器高	外面	内面	底部	備考	挿図	図版
149	I-17	V層	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		40	23
150	I-20	V層	須恵器	甕	(13.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		40	26
151	I-20	V層	須恵器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		40	26
152	G-14	V層	須恵器	壺？	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	頸部継ぎ目を断面三角形の隆帯にして整形。	40	32
153	F-6	V層	須恵器	壺底部	-	(10.0)	-	ケズリ	ハケ目	ナデ？		40	32
154	F-11	V層	須恵器系陶器	甕	―	―	―	タタキ目	アテ痕	不明	珠洲。	41	32
155	B-7	V層	須恵器系陶器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	珠洲。	41	26
156	B-5	V層	須恵器系陶器	甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	珠洲。	41	26
157	B-6	V層	土師器	甕	(24.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目	不明		41	22
158	D-20	V層	土師器	甕	(13.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ナデ	不明		41	22
159	G-14	V層	土師器	甕	-	(8.2)	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		41	32
160	G-14	V層	土師器	甕	-	(9.0)	-	ハケ目（ケズリ？）	ハケ目	木葉痕		41	32
161	I-17	V層	土師器	甕	-	(6.0)	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		41	-
162	I-18	V層	土師器	甕	-	8.3	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		41	32
163	I-17	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		41	28
164	I-18	V層	土師器	甕	-	-	-	ナデ	ナデ	不明		41	28
165	I-17	V層	土師器	甕	-	-	-	不明	不明	ムシロ痕		41	32
166	I-19	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		41	22
167	I-19	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		41	28
168	I-19	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	外面に煤痕付着。	41	-
169	I-19	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		42	32
170	I-19・20	V層	土師器	甕	-	-	-	不明	ハケ目	不明		42	28
171	I-20	V層	土師器	甕	-	(9.0)	-	ハケ目	ハケ目	木葉痕		42	32
172	I-20	V層	土師器	甕	-	(10.4)	-	ハケ目	ハケ目	木葉痕		42	32
173	I-20	V層	土師器	甕	19.2	-	-	ハケ目→ナデ	ナデ	不明	内面黒色処理。	42	22
174	I-20	V層	土師器	甕	-	(10.0)	-	不明	不明	木葉痕		42	32
175	I-20	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		42	-
176	I-20	V層	土師器	甕	-	-	-	ハケ目	ミガキ	不明	内面黒色処理。	42	28
177	G-14	V層	土師器	小型甕	(10.6)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		42	28
178	I-19	V層	土師器	小型甕	-	-	-	ハケ目→ナデ	ナデ	不明		42	28
179	I-19	V層	土師器	小型甕	(14.8)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明		42	28
180	B-5	V層	土師器	坏	-	6.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		43	32
181	I-17	V層	土師器	坏？	-	(7.6)	-	不明	黒色処理	不明	煤多量に付着。	43	29
182	B-5	V層	土師器	無台坏	-	(6.0)	-	ロクロナデ	ナデ	回転糸切		43	29
182	I-19	V層	赤焼土器	有台坏	-	(6.8)	-	ロクロナデ	不明	静止糸切	内面火ハネ？著しい。	43	29
183	G-14	V層	土師器	無台坏	-	6.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面に刻書「可」。	43	26
184	B-10	V層	土師器	有台坏	(15.3)	8.0	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		43	32
185	B-5	V層	土師器	有台坏	-	(6.8)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	焼成不良。	43	29
186	I-20	V層	土師器	有台坏	-	6.6	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	被熱著しい。	43	29
187	I-20	V層	土師器	有台坏	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	内面黒色処理。	43	29
188	B-5	V層	赤焼土器	無台坏	-	(6.4)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		43	29
189	I-17	V層	赤焼土器	無台坏	-	6.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	焼成不良。胎土に砂多く混じる。	43	29
190	B-5	V層	赤焼土器	有台坏	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		43	29
191	I-19	V層	赤焼土器	有台坏	-	(7.2)	-	ロクロナデ	欠けており不明	回転糸切		43	29
193	B-5	V層	赤焼土器？	甕？	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		43	28
194	I-6	V層	施釉陶器	耳皿？	-	(4.8)	-	不明	ロクロナデ	回転糸切	内面に灰釉。	43	26　32
195	G-11	V層	かわらけ		-	-	-	ナデ	ナデ	不明		43	26
196	G-14	V層	かわらけ		(10.4)	-	-	ナデ	ハケ目→ナデ	不明		43	26
197	I-16	Ⅳ層	須恵器	有台坏	14.8	7.0	5.35	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	底面及び体部外面に墨書有り。	37	32
198	X-O		須恵器	平瓦	-	-	-	縄目状タタキ	布目圧痕	-	厚さ2.6㎝	37	32

Ⅳ　考察

（１）検出された遺構について

今回の梅野木前遺跡の発掘調査では、報告したもので竪穴住居跡３棟・掘立柱建物跡３棟・土坑５基・柱穴 77 基・溝跡 18 条・河川跡１条である。

出土遺物の傾向から、時期は大きく８世紀末から９世紀前半にかけてのものがほとんどであると推定される。ただし、後述の様に大半の遺物は、遺構検出面直上のⅤ層、あるいは堆積時期が中世前期以降まで降るＳＧ 41 河川跡覆土中より出土したものである。

ＳＩ 37・ＳＩ 80 竪穴住居跡は検出時の平面形状が不整方形を呈し、カマドを確認することができなかった。いずれの遺構からも被熱礫（５～７）や、熱を受けた須恵器（９）が検出された。今回の発掘調査の中で、ＳＩ 37 より木簡（２）が発見されたことは特筆される。

ＳＩ 168 は、ＳＸ 139・ＳＸ 140 覆土中に多量の炭化物及び焼土が確認された事により精査を行ったが、カマドは確認できなかった。住居跡全体の形状について範囲の確定に難はあるが、床面を整地した遺構がＳＸ 139・ＳＸ 140 と推定した。

ＳＢ 169・ＳＢ 170 は現場段階で遺構範囲が推定できたが、溝跡と柱穴群は伴うものか、あるいは溝跡を建物が切るのかについては不明である。

前後関係を整理すると、ＳＢ 169 北東隅のＳＰ 164 はＳＤ 16 の精査後に確認され、ＳＤ 16 はＳＤ 35 に切られる。軸線方向から推測すると、ＳＤ 35 はクランクしてＳＤ 29 と同一の遺構となる可能性も考えられ、この場合、ＳＰ 164（ＳＢ 169）→ＳＤ 16 →ＳＤ 35・ＳＤ 29 →ＳＢ 170 といった切り合いが想定され、大きな時間的隔たりはないものの、ＳＢ 169 よりＳＢ 170 は新しい可能性が考えられる。

ＳＢ 171 は、整理作業中に図上で推定復原を行い、遺構として登録した。柱穴としての規模にバラツキが見られ、遺構の同時性が不明だが、ＳＤ 113・ＳＤ 115 等の蛇行する溝跡により囲まれる様相を呈している。

土坑跡や柱穴については、平面検出形状が不整円形のものが多く、出土遺物量も全体の出土状況からするとごくわずかであり、遺物を伴う遺構も少ない。しかし中にはＳＫ 18 の刀代（52）、ＳＰ 160・ＳＰ 161 出土の土師器甕（30・31）の様に、遺構に埋納されたような特殊な出土状況を呈するものもあった。建物跡を構成するに至らなかった柱穴跡（表２）には遺物を伴わないものが多く、具体的な時期判断は困難であった。大半がⅤ層を精査した後の検出であったため、古代の遺構であると判断されるが、一部後世の耕作痕を含む可能性も考えられる。

溝跡は、上述のＩ－ 18 ～ 19 グリッドに検出されるＳＤ 113・ＳＤ 115 などは蛇行して深さは 10 ㎝前後の堆積状況であった。

その他の溝跡については、規模が幅 20 ～ 30 ㎝・深さが 10 ～ 15 ㎝前後の、断面半月状を呈する浅いＳＤ 36・ＳＤ 40・ＳＤ 82・ＳＤ 123・ＳＤ 126 等、規模が幅 40 ～ 60 ㎝のＳＤ１・ＳＤ 125 等が確認される。調査区形状が大きく制約されている都合から、遺構配置の中で、先述の竪穴住居跡や掘立柱建物跡と溝跡との関連性については不明である。切合い等が確認されている箇所もほとんどなく、これらの浅い溝跡が集落の中でどのような役割にあったのかは不明である。

（２）出土遺物について

今回の調査によって出土した遺物は時期的には８世紀後半から９世紀前半にかけてのもの・12 世紀後半のもの・近代のものが確認された。主体を占めるのは古代の須恵器である。

ほとんどの遺物が後世の耕作により撹拌されたと推測される。遺構に伴うものは少なく、Ⅴ層からは大量の遺物が確認されたが、その上層のⅣ層に含まれる遺物も含め、複数のグリッドにわたる範囲で離れ、10 ｍ前後の範囲に跨ってなお接合するものも確認された。

須恵器の帰属時期は、形状の観察により分類を行うと、無台の坏は、回転篦切の後、簡易にナデた痕跡が見られるもの、ある程度底径が大きく（４～５㎝前後）回転糸切による調整が施されるもの、底径が小さく回転糸切・わずかに静止糸切のものが見られた。そのため、底部の特徴から判断して奈良時代末～平安時代中葉までの時期に至るものと推定された。

甕は外面に平行タタキや格子状タタキ、内面に同心円状アテ痕などが認められるものがほとんどであった。壺は体部外面にケズリ調整、内面にカキ目やナデが施されるが、破片資料がほとんどであった。特に甕の破片（11･39 など）で、体部の外面を研磨具として利用したような擦痕が顕著に見られるもの、あるいは火を受けているものが数点見られたが、用途は不明である。

特徴的な遺物としては、平瓶（104）が１点出土した。Ｉ－17 グリッドのＶｃ層中からの出土である。集落遺跡の発掘調査による検出事例としては県内初出である。

土師器の大半は全体の復元に至らないものが大半であった。特に破片資料ながら甕・小型甕が多く確認され、土器の遺存状況はあまりよくない。体部の内外面にハケ目が施され、口縁部から屈曲部分をナデている調整を施すものが大半であった。ロクロ整形による土師器甕は確認されなかった。

赤焼土器は、ロクロ整形による有台及び無台の赤焼土器坏が確認された。散発的にＳＧ 41 及びＶ層覆土中から出土した。接合が困難なものが多かったため、図化に至ったものは少ない。概括的な特徴としては、無台坏は底径が大きく底面縁辺部に高台状に沈線を施したもの、底径が小さく切りっ放しのものに大別される。有台坏は幅６～８㎜程度の肥厚な広大がつくものが目立った。

特筆すべきものとして、施釉陶器の耳皿状の皿（194）が出土している。体部のカーブが均一でないため、耳皿の可能性を推定した。Ｖ層中からの出土であり、遺構には伴わず、他の遺物との共伴関係も不明である。底部切り離しは回転糸切であり、見込みに緑色の灰釉が施釉されている。また、廃土中からの出土だが、平瓦（198）が１点確認された。

墨書土器は 11 点確認された（１・８・16・79・97・109・111・124・129・131・197）。須恵器・赤焼土器の無台・有台坏の底部もしくは体部に書かれているものが多い。字形が判読できたものは（97）の「石」のみである。他に刻書土器（183）が１点のみ出土しており、字形は「可」である。

木製品では、ＳＩ 37 覆土中より木簡（２）が確認された。釈文については山形大学人文学部の三上喜孝准教授より内容について釈読を頂いた。内容の詳細については附章を参照いただきたい。同遺構からは形状及び表面の整形の酷似する木製品（３）が出土しており、同一個体かどうか判然としないが、同じく呪符木簡の断片かと考えられる。「龍王」名の記載のある木簡は県内では２例目となり、米沢市馳上遺跡（須賀井・黒沼・佐藤　2002）に続く出土となる。また、刀代（52）がＳＫ 18 覆土底面より出土した。

石製品では、焼けたものや、表面に炭化物を多量に付着した礫が散発的ながら確認された。用途は不明である。

12 世紀代後半と考えられる白磁の端反碗Ｖ類口縁部片（98）がＳＧ 41　グリッドのＦ１層より出土しており、12 世紀代と推定されるかわらけがＧ－14 グリッドのＶ層中から出土しているため、ＳＧ 41 の年代は８世紀代後半～ 12 世紀代後半に至るものと推定される。

ＳＤ 36 からは珠洲系陶器片（48）が出土している。

遺構検出範囲のほとんどが、ＳＧ 41 Ｆ１層と酷似するＶ層により覆われており、Ｖ層を精査した後に遺構が検出される状況にあった。

この他に本調査区内で、古代・中世以降の時期に帰属すると判断される遺構が確認された。これらは昭和 30 年代実施の耕地整理時基盤層のⅢ層を精査した後に検出されたため、近代以降、昭和 30 年代までの間に形成された遺構と判断される。木杭や陶磁器類が少量出土したが、紙数の制約のため、掲載しなかった。

（３）まとめ

本次調査区においては、過年度の調査成果と若干ながら関連性を見出すことができた。出土遺物の年代も時期的に重複しており、一連の遺跡であると判断される。

立地は本次調査区と西隣の平成 17 年度調査区は同一であり、北西方向に至る平成 15 ～ 16 年度の（財）山形県埋蔵文化財センター調査区に向って低くなる状況にある。

大まかに、本次調査区の検出遺構の時期区分について概要を述べておきたい。報告書中に記載したほとんどの遺構は 9 世紀前半、平安時代の遺構と判断される。

例外としては、須恵器系陶器の出土したＳＤ 36、及び中世の遺物を若干含み、ＳＤ 36 を切るＳＧ 41 が年代の下限が 12 世紀後半まで降る可能性がある。

遺構の性格は、調査区が大きく制約された事により、遺構全体の様相については不明な点が多い。しかし木簡や平瓶などの特徴的な遺物の出土が確認された事などから、扇状地前縁部内微高地に立地した平安時代前期の集落様相とその祭祀的活動の一端が明らかになったものと考える。今後、特に墨書土器が多量に出土した（財）山形県埋蔵文化財センターによる平成 15 年度調査区等との比較が今後の検討課題として挙げられよう。

参考文献

阿子島功・茨木光裕・江川隆・武田和宏 1994『嶋遺跡発掘調査概報』山形市教育委員会

阿部明彦・水戸弘美　1999 「山形県の古代土器編年」『第 25 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』第 25 回古代城柵官衙遺跡検討会事務局

伊藤邦弘 2007『梅野木前１遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 160 集

植松薫 2006『梅野木前１遺跡発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第 26 集

小野忍 1979「酒田市樋ノ口出土の須恵器」『さあべい』第２巻第４号　さあべい同人会

柏倉亮吉 1982「５　和名抄による郷の分布」『山形県史　第一巻　原始・古代・中世編』 山形県

金井の歴史刊行会　2003『金井の歴史』

國井修　2004 『南志田遺跡発掘調査報告書』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

須賀井新人・植松暁彦『今塚遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第７集

須賀井新人・黒沼幹男・佐藤明日香『馳上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 101 集

須賀井新人　2003 「山形県内の黒色土器編年について」『山形考古』第７巻第３号　山形考古学会

高畠町　1971『高畠町史　別巻　考古資料篇』

武田和宏 2003 『河原田遺跡　梅野木前２遺跡発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第 22 集

南陽市　1987『南陽市史　考古資料編』

八ヶ郷堰土地改良区　1994『八ヶ郷堰と土地改良区』

平田天秋 2006『珠洲焼窯跡群－珠洲古陶関係遺跡発掘調査等事業－』珠洲市教育委員会

山形県　1982『土地分類基本調査　山形』

山形県教育委員会　1992『分布調査報告書（19)』山形県埋蔵文化財調査報告書第 171 集

山形市　1973『山形市史　上巻』

横田賢次郎・森田勉　1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集』4

田萃　一九九五）とする説などがある。

③の木簡が出土した内匠日向周地遺跡は、湧水によって西から東に向かい開析された谷津状地形の底部に位置する遺跡で、三点の木簡は、古代の谷津状遺構から出土したものである。

この木簡が作成された背景として注目されたのが、八世紀前半に成立した『常陸国風土記』の行方郡条に伝わる、箭括麻多智（やはずのまたち）による開発説話である。この説話の舞台となった行方郡の西方、霞ヶ浦に面した谷地には、複雑に入り込む何本もの谷があった。箭括麻多智という人物はこの谷口の低湿地の葦原を切りはらって、新たに水田を開発した。その開発に際して、谷に住む谷戸（夜刀）の神である蛇を鎮めるために、夜刀の神である蛇を祭ったことが風土記に記されている。風土記にみえる行方郡の谷戸の景観と、内匠日向周地遺跡の地形は類似しており、その点から、本木簡が谷地における水田開発の際の祭祀と関わっているのではないかと推測される。

③の木簡を釈読した平川南氏は、『常陸風土記』の説話をふまえて、これを「天罡、蛟蛇、龍王に奉る」と読み、「龍神の使いで谷戸（夜戸）の神である蛟蛇が水の枯渇または大雨による洪水を恐れ、水神である龍王に雨乞いまたは止雨を祈願した札ではないか」あるいは、「谷戸開発に伴う犯土のさいに龍王に対する祭祀を実施した可能性も、考えられるであろう」と推定している（平川南　一九九五）。

④の木簡は、「八龍王」がくり返し記されている点が特徴である。これが『法華経』などにみえる「八大龍王」のことを意味しているとすれば、祈雨や止雨にかかわる木簡であると推定できる。さらに、河川跡から出土している点からも、河川の枯渇あるいは増水による洪水を恐れ、水神である「龍王」に雨乞いあるいは止雨を祈願した札であると考えることもできる（三上喜孝　二〇〇二）。

さて、本木簡に立ち戻ってみると、記載内容は、①の木簡に近い。すなわち、「東方青龍王」「南方赤龍王」「西方白龍王」は、①の木簡の「東方木神王」「南方火神王」「中央土神王」という表現にきわめて近い。

本木簡にみえる、東方を「青」とし、南方を「赤」とし、西方を「白」とする考え方は、いうまでもなく陰陽五行説にもとづくものであり、東方の守護神として「青龍」、南方の守護神として「朱雀」、西方の守護神として「白虎」、北方の守護神として「玄武」があることはよく知られている。

また、管見のかぎり、木簡の記載と対応する表現を持つ経典に、名古屋市の七寺一切経（平安末期書写）の『安墓経』がある（増尾伸一郎　二〇〇三）。

「仏告東方青龍王軍・南方赤龍王軍・西方白龍王軍・北方黒龍王軍。五行六甲禁忌十二時神立符。時歳月劫殺。家王、父母墓前微在墓石。墓処八神天神公神其母神子女神各安所在。墓有嬈害人生。起功立墓傷害衆生、恐傷犯土公。立家天上諸神及立中諸神恐嬈害亡人致趣。便生人家中諫詞大小若有疾病、或致官家口舌横生、銭財不長家中不安、田重不収」

（東方青龍王軍・南方赤龍王軍・西方白龍王軍・北方黒龍王軍に告ぐ。五行・六甲禁忌・十二時神、符を立つ。時歳月劫殺あり。家王、父母の墓前に微かに墓石を在（み）る。墓処の八神・天神・公神・其の母神・子女神、おのおの在る所を安んずるなり。墓に人生を嬈害するあり。功を起こして墓を立てれば衆生を傷害し、土公を傷犯するを恐る。家を立てれば天上の諸神、及び土中諸神は亡人を嬈害するを恐れて、趣くことを致さず。便ち生人の家中に諫詞の大小あるは、疫病あり、或いは官家の口舌横に生じ、銭財長ぜず家中安んぜず、田重ねて収めざるが若しと）

これは家墓を安穏に保つことを説いた経典であるが、同種の経典として、居宅の安寧を説いた『安宅経』がある。これは、後漢代失訳（訳経者不明）として『大正新修大蔵経』第二一巻に収められているが、典型的な中国撰述の疑偽経典であると考えられる。『安宅経』は、『日本書紀』白雉二年（六五一）十二月晦日条に、「味経宮」において「安宅・土側等の経を読ましむ」とあり、七世紀後半段階ですでに日本に受容されていたことが分かり、八世紀の正倉院文書にもその名がみえる。この『安宅経』にも、「東方大神龍王七里結界金剛宅南方大神龍王七里結界金剛宅西方大神龍王七里結界金剛宅北方大神龍王七里結界金剛宅」という表現がみえ、藤原京出土木簡の記載とも類似する。

本木簡は、こうした『安宅経』や『安墓経』などの経典の存在が背景にあって作成されたとみることができるであろう。

「龍王」が記載された木簡の評価をめぐっては、祈雨や止雨にかかわる祭祀と結びつけられていることが多いが、『安宅経』『安墓経』などの存在から、犯土にさいして実施された祭祀と関わって作成された可能性も考慮しておく必要があろう。

五　本木簡の意義（まとめ）

①本木簡は、呪符木簡である。「龍王」にかかわる古代の木簡は、全国では数例にとどまるが、山形県では二例目の出土である。

②木簡の記載と類似する表現は、家墓を安穏に保つことを説いた経典である『安墓経』などにみえ、本木簡が、犯土にさいして実施された祭祀に用いられた呪符木簡である可能性がある。そして、こうした経典の知識にもとづく儀礼が、平安時代の東北地方にまで広く行われていたことが確認できた。

引用文献

芝田文雄　一九八一　「百怪呪符」『伊場木簡の研究』東京堂出版

平川南　一九九五　「群馬県富岡市内匠日向周地遺跡出土の木簡」『（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第一八八集　内匠日向周地遺跡　下高瀬寺山遺跡　下高瀬前田遺跡』、のち『古代地方木簡の研究』吉川弘文館、二〇〇三に収録

増尾伸一郎　二〇〇三　「都城の鎮祭と〈疫神〉祭儀の展開」『環境と心性の文化史　下巻』勉誠出版

三上喜孝　二〇〇二　「山形市馳上遺跡出土木簡」『山形県埋蔵文化財センター調査報告第一〇一集　馳上遺跡発掘調査報告書』財団法人山形県埋蔵文化財センター

和田萃　一九九五　「呪符木簡の系譜」『日本古代の儀礼と祭祀・信仰』塙書房

和田萃　一九九七　「南山の九頭龍」『日本国家の史的特質　古代・中世』思文閣出版

附章　山形市梅野木前1遺跡出土木簡

山形大学人文学部　三上　喜孝

一　形状

上下端は原形をとどめているが、左右側面は欠損している。上下端は、斜めに整形されており、当初からの加工か、あるいはなにかの木製品を転用したものかについては、不明である。

二　釈文

・「東方青龍王　南方赤龍王　西方白龍王　」

〔上カ〕

・「□□　」

二八一×（二五）×三　〇八一

三　年代

木簡は竪穴建物跡と考えられるSI37から出土した。年代は、伴出の須恵器の坏や、遺跡の土層から、九世紀の前半と考えられる。

四　内容

本木簡は、内容から考えて呪符木簡であると考えられる。「龍王」の記載が見られる点が特徴である。左右側面は欠損しているが、「東方青龍王」と書かれた行の左側に、「北方黒龍王」と書かれていた可能性がある。

これまで出土している、「龍王」にかかわると思われる古代の木簡は、次の通りである。

①藤原京跡九条四坊出土木簡（『木簡研究』一六号、一九九四年）

・「＞　七里□□内□送々打々急々如律令

四方卅□大神龍王　」

・＜東方木神王　婢麻佐女生年廿九黒色

南方火神王　（人物像）

中央土神王　婢□□女生年□□□□

［　］

［　］　（人物像）　」

四六七×八三×七　〇三二

②伊場遺跡出土木簡（『静岡県史　資料編四』一九八九年）

・「＞　百恠咒符百々恠宣受不解和西恠□亡令疾三神□□〔宜カ〕

宣天罡直符佐□当不佐亡　急々如律令

弓　龍　神

（竜の墨画）　人山龍　急々如律令

人山龍　」

・「＞　戌

戌　戌　蛇子ロロロ

急々如律令

弓ヨヨヨ弓　」

三二二×六七×四　〇三二

③群馬県富岡市内匠日向周地遺跡出土木簡（『（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第一八八集　内匠日向周地遺跡　下高瀬寺山遺跡　下高瀬前田遺跡』）

（一号木簡）

「□□蛟□奉龍王　（二五〇）×三三×四　〇五一

（二号木簡）

「□□□蛇奉龍王　（一四五）×三三×七　〇一九

（三号木簡）

「□□□×鬼□□　（四二＋五三）×三五×六　〇一九

④山形県米沢市馳上遺跡出土木簡

〔梵字カ〕

・□（符籙）鬼鬼鬼［　］八龍王水八竜王草木万七千

・□□龍王□□龍王［　］□□□□〔龍カ〕□□八竜王

（一二九＋六八）×二〇×三　〇一一

①の木簡は、藤原京右京九条四坊発掘調査において、南北道路である西四坊坊間小路東側の溝から出土したものである。和田萃氏によれば、ここに記載されている「四方卅□大神龍王」「七里□□内送々打々急々如律令」「東方木神王」「南方木神王」「中央土神王」などの表現は、鳩摩羅什訳の『孔雀王呪経』にある「東方大神龍王七里結界金剛宅」「南方大神龍王七里結界金剛宅王」「西方大神龍王七里結界金剛宅」「北方大神龍王七里結界金剛宅」「中央大神龍王七里結界金剛宅」の表現と類似していることを指摘し、この木簡が四方の龍王に雨乞いするためのものだったろうと推測している（和田萃　一九九七）。

②の木簡は、伊場遺跡の大溝から出土したもので、八世紀後半から一〇世紀中頃のものとされ、年代幅がある資料である。「龍王」の文言そのものは記載されていないが、この木簡の表には「天罡(岡)」「龍神」、裏に「虵（蛇）」の文字が確認できる。木簡全体の釈文が確定していないので性格は不明だが、止雨祈願呪符とする説（芝田文雄　一九八一）や、疾病除去（和

報　告　書　抄　録

ふりがな	うめのきまえいちいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	梅野木前１遺跡発掘調査報告書
副書名	ＦＭ山形嶋店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 28 集
編著者名	須藤英之
編集機関	山形市教育委員会
所在地	〒 990-8540　山形県山形市旅篭町二丁目３番 25 号　ＴＥＬ　023-641-1212（代）
発行年月日	2007 年 7 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
うめのきまえ　いせき 梅野木前１遺跡	やまがたけん 山形県 やまがたし 山形市 うめのきまえ 梅野木前	6201	平成３年度 登録	38°　17′　00″	140°　18′　56″	20061026 ～ 20061228	2,803 ㎡	店舗建設 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梅野木前１	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 柱穴跡 溝跡 河川跡	土師器（甕） 須恵器（蓋・坏・有台坏・皿・壺・甕） 赤焼土器（坏・有台坏） 施釉陶器（皿） 木製品（木簡・刀代・柱根）石製品（砥石・被熱礫）	平安時代の集落。古代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝跡などを検出。
		中世	溝跡 河川跡	白磁（碗） かわらけ 珠洲系陶器（甕）	
					総出土箱数 20 箱

要約	梅野木前１遺跡は山形盆地の東南部、馬見ヶ崎川扇状地扇端の前縁部に立地する、古墳時代と奈良～平安時代・中世の複合遺跡である。株式会社しまむらによるＦＭ山形嶋店新築工事に伴い発掘調査を実施した。調査では、奈良～平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構が検出され、須恵器・土師器・赤焼土器などの遺物が出土した。中でも、須恵器の平瓶や木簡が検出された事が特筆される。

図　　版

調査区遠景（北西から）

Ⅰ-19 グリッド出土平瓶

図版２

調査区全体（西から）

SB169・SB170 俯瞰（南から）